

会議結果のお知らせ

1 開催した会議の名称

令和7年度第2回岩手県公共事業評価専門委員会

2 開催した日時

令和7年7月10日（木） 9:30～11:00

3 開催場所

エスポワールいわて 3階 特別ホール（盛岡市中央通1-1-38）

4 出席委員

武藤由子専門委員長、石川奈緒副委員長、伊藤幸男委員、谷本真佑委員
（6名中4名出席）

5 議題等

（1）議事

ア 公共事業の再評価について＜継続審議＞

詳細審議地区4件について、事業担当課から資料No.2（公共事業再評価詳細審議資料）に基づいて説明があり、審議が行われた。

■ 専門委員からの主な質疑、意見は次のとおり

【経営体育成基盤整備事業 小猪岡（一関市）】

（質疑）

耕作放棄防止効果の多面的機能に、新しく3つの効果が追加されたということだが、この地区ではその3点すべての効果が追加されたのか。

（回答）

多面的機能が発揮され続ける効果は、国民にアンケートを取ってCVMの効果で算定しており、54万4,000円を耕作放棄面積に乗じて算出している。項目ごとの詳細は把握できていない。

（質疑）

耕作放棄面積の算出方法は。

（回答）

まず、耕作放棄の発生率を推計する。高齢化率（65歳以上の割合）、担い手への集積面積率、後継ぎ率の係数から算定しており、0.23%と出ている。そこに、整備前の農地面積をかけて放棄面積を算出している。

（質疑）〔清田関連〕

収益額が変わっている要因の一つとして単価が変わっているということだが、単価はどのくらいの頻度で更新されているものなのか。

（回答）

毎年更新されている。単価は、過去5年間の平均を使用している。

（質疑）

飼料米の増産から主食用米の増産を中心とする営農方針への変更は、いつ頃把握したのか。

（回答）

令和5年度に最終的に計画されたものである。

（質疑）

耕作放棄防止効果が新たな算定方法となったが、今回再評価時の3,800万円の内訳は。

（回答）

作物生産量から算定した効果額が切り上げて100万円、国民が多面的機能保全のために負担して

もよいと感じる金額から算定した効果額が 3,700 万円である。

(質疑)

小猪岡では再評価時に主食用米が減り、清田では増えている。地区の判断や時代の状況にもよると思うが、地区ごとで異なるのはよくあることなのか。

(回答)

今は、水稻だけをずっと作付する地区は少なく、様々なものに取り組んでいる地区が多い。取り組み方は地区の考え方による。

【林道整備事業 畑福線（葛巻町）】

(質疑)

鉄鋼スラグ路盤工によるコスト縮減額はどのくらいか。

(回答)

実施する路線によって異なるが、従来の路盤補強工に比べて 3 割程度になり、工法も簡単になるのは大きいと考える。

(質疑)

従来の路盤補強工から鉄鋼スラグ路盤工に変えることによって生じるデメリットはあるか。

(回答)

鉄鋼スラグ路盤工の施工例はまだ少ないが、現在やっていて不具合は確認されていない。

(質疑)

積雪状況を見ると、かなり積雪が多く、通年工事ができるわけではないと思うが、1 年のうち工事期間はどのくらいか。

(回答)

積雪により 12 月下旬から 3 月中旬までは現場に行くことが厳しいため、それ以外の期間で実施している。

(質疑)

新工区を作ることは効率が上がっていいと思うが、単年度の事業費が増加するのではないか。

(回答)

工区を起こせば事業費がかかってくるのはそのとおりだが、他の路線と調整しながら、優先的に予算を回して事業を進めていきたい。

(質疑)

融雪等による法面崩落の原状復旧にかかる費用も事業費に含まれるのか。また、積雪が多いことから他の工区でも同様のことが発生する恐れがあると思うが、その場合の費用についてどのように考えているか。

(回答)

状況がひどい場合は補修工事の費用として計上するが、今回の法面崩落は少規模だったため通常の維持業務の範囲内でやっていただいている。

【地域連携道路整備事業（ネットワーク形成型） 一般国道 340 号 和井内～押角（宮古市）】

(質疑)

国道 45 号の迂回路として機能していることを挙げていただいたが、国道 455 号の盛岡から岩洞湖を通り岩泉を経由して小本まで行く道路が、例えば岩洞湖周辺で大雨等で通行止めになった場合、盛岡からの迂回路にもなると考えられるが、どのように考えているか。

(回答)

おっしゃるとおり。岩泉町の方々が盛岡に行く手段とすれば 455 号のほかに 340 号を使って 106 号に出る、または三陸沿岸道路を通して一度宮古に出てから 106 号で行くというルートがあるが、340 号の沿線に近い住民の方々はやはり 340 号を迂回していると考えられる。

(質疑)

高速道路へのアクセスが向上することも考えられるが、そのようなことを評価できる指標はあるか。

(回答)

茂市出入口へのアクセスのしやすさの評価については、評価指標の重要性の項目（ネットワークの位置付け）で加点して評価している。

(質疑)

道路全体の中の一部を評価すると効果が低く算定されてしまうが、茂市から落合まで完成した場合の効果はどう見込んでいるか。

(回答)

まだ未改良区間が多いことや事業費がどのくらいかかるか算定できていないことから、全体としての評価はしていないが、林業支援、観光支援、県立宮古病院への救急アクセスへの効果があると考えている。評価指標では、産業振興、生活支援で加点をしているところである。

(質疑)

地すべりが発生しないように法面を掘削しないのはわかるが、路面高を 2.0m 上げるのはかなり大がかりな変更だと思う。これ以外の方法は検討できるものなのか。

(回答)

前後区間において、当初から大型ブロック積工を想定して計画しており、同じ工法で上げることを考えている。別なタイプの擁壁等もあるが、川沿いのため L 型擁壁を厚くしなければならないなど、さらに検討が必要になることから、当初計画の大型ブロック積工を維持し、そのまま高くする計画とした。

(意見)

林業に携わっている方は、合板工場にはできるだけ大きいトラックで出したいという思いがあり、20 トンクラストラックが出せるかどうかは採算性に響いてくると考える。また、106 号沿いの川井村には林業事業者があり、多くの木材収集やバイオマス発電所への燃料材の搬出もあるため、この路線は林業的には重要性が高いと思う。

【総合流域防災事業（河川） 一級河川北上川水系広瀬川 向田（奥州市）】

(質疑)

一般資産被害額の算定方法には、被害を受ける地域の人口がかかわるのか、面積がかかわるのか。

(回答)

人口ではなく、対象となる面積における水害統計の被害額を積み上げて算出している。

(質疑)

流量配分図について、宗匠橋のところで 510m³/s だったものが北上川に入るまでに 570m³/s に増えているが、途中の 60m³/s 分は支川が入ってくるのか。

(回答)

そのとおりである。

(質疑)

流量配分図の流量は、平水時のものか、降雨量が多くなった最大時のものか。

(回答)

洪水時である。計画している河川断面で流下できる最大の流量を表している。

(質疑)

平水時は大体どのくらいの流量か。

(回答)

後日回答する。

イ 第 3 回専門委員会（現地調査）について

資料 No. 3（現地調査行程（案））のとおり、「地域連携道路整備事業（ネットワーク形成型）一般国道 340 号 和井内～押角」を現地調査の対象と決定した。

(2) 会議資料

- 資料 No. 1 令和 7 年度第 2 回公共事業評価専門委員会詳細審議対象地区 位置図
資料 No. 2 公共事業再評価詳細審議資料
資料 No. 3 令和 7 年度第 3 回公共事業評価専門委員会 現地調査行程 (案)
参考資料 令和 7 年度第 1 回公共事業評価専門委員会の審議概要

※ 会議資料及び会議録については、行政情報センターへ配架するとともに、県のホームページに掲載します。

6 傍聴人数

一般 0 人 報道 2 社

7 問い合わせ先

〒020-8570 盛岡市内丸 10 番 1 号

岩手県政策企画部政策企画課 TEL : 019-629-5181 FAX : 019-629-6229

8 アドレス

<https://www.pref.iwate.jp/kensei/seisaku/hyouka/koukyouhyouka/1086055/1086061.html>

9 その他

政策等の評価について御意見がありましたら、上記問い合わせ先まで FAX 等でお寄せください。
今後の専門委員会での審議の参考とさせていただきます。